

## 第 1 回協議会における委員等からの指摘事項と対応

| 区分               | 主な意見   | 意見への対応   |
|------------------|--|--|
| <b>全体に関連する事項</b> |  |  |
| 教育の効果            | 観光業、旅館業の従業員に対して、丹後検定や勉強会等を開いて丹後の歴史文化を教育していくのが大事ではないか。この計画が、地域の人たちにも気づきがあり、子ども達もこの地域に生まれて良かったと思うようなものにできたらと思う。  | 第 4 章以降の方針や措置などに意見を反映させる。  |
| 計画作成後の冊子作成       | 計画完成後には、第 3 章で示された各資産をどれだけ分かりやすく伝えるが大切。計画作成後に市民にも分かりやすい冊子等を作ることも計画の中に盛り込んで、より多くの人に知ってもらい、観光に活かしてもらうということが必要。   |  |
| 拠点施設の重要性         | 鳴き砂を守ることが、持続可能な村づくりにつながるということで現在に至っている。鳴き砂文化館という拠点施設が、何かしようと思うときには大事である。自分たちの地域を残そう、何かしようと思うと、仲間を集めるというのが第一歩である。   |  |
| <b>章別の意見</b>     |  |  |
| 序章               | 地域計画作成の背景に、総合計画の「歴史・文化を未来につなぐ誇りあるまちづくり」等を全面に出し、文化財を未来に向けて保存していくことを示したほうが、なぜこの計画を作るのかということが明確になる。総合計画にも挙げられている大きな目標がこの地域計画で達成できるということを強調していくことが、京丹後市らしい地域計画になる出発点になる。 | 総合計画の歴史文化に関わる部分に関しては反映していかなければいけないと認識しているため、ご意見を踏まえて修正した。(1 頁)   |
|                  | 「かつて古代には「丹後王国」が存在したといわれています」と記載されているが、本当に「丹後王国」は存在したのか疑問である。   | 「丹後王国」が必ずしもあったとは言えず、「」付けで表記しているが、ご意見にそって、序章では「丹後王国」ともいうべき勢力が存在したことがわかります。」と修正した。(1 頁)                        |
|                  | 「文化財総合活用推進事業」の補助金のひとつで国登録有形文化財を修理できる。例えば地域計画の計画期間を 3 年程度とするのもひとつの方策ではないか。  | 総合計画の計画期間との兼ね合いと、長期的な視点も必要であると考えているため、計画期間は 5 年間のままとする。  |
| 第 1 章            | 第 1 章は必要な部分は強調しても良い。ジオパークにつながる自然の部分や丹後学については加筆して、京丹後市はこんなところが面白いと繋げられると次が読みやすくなる。第 1 章の概要の部分でも、続く章を見据える形の書き方をすると、計画全体がスムーズに流れるのではないかと思う。                             | ジオパーク関連部分についてはこれまでの市民の活動などの取り組みを加筆した。(30～31 頁) 丹後学の取り組みについては、今後、4 章でこれまでの取り組みを示したうえで計画の方針につなげることとし、4 章で記載する。 |
|                  | 市民の努力でジオパークに認定されたことを書いて欲しい。資源を守って活用する活動があったからこそ、UNESCO に認定された。さらにより強く UNESCO に認定されたということによって、この地区をどうしたいかということもうまく盛り込んで欲しい。   |  |
|                  | 素案 21 頁の地域別の年齢層別人口割合について、弥栄町以外をみるとおおそ昭和の大合併前の旧村単位で示されているが、弥栄町は平野部と山間部という区分けになっており修正をすべき。   | 国勢調査による地域区分を採用しているため地域別単位は現行のままとする。(21 頁)  |

| 区分   | 主な意見   | 意見への対応   |
|--|--|--|
| 第1章  | 年齢構成について、図 1-12 では年齢別の括りが 15～64 歳になっているが、高校生までは地元にいるので地域外に出るタイミングは 18 歳ではないかと思う。その人口の落差が分かるように示したほうが良い。高校生までに文化財に親しんでもらいたいという計画の立て方ができる。                                 | ご意見にそって、0～14 歳、15～19 歳、20～24 歳に区分して、人口構成のグラフを修正した。(19 頁) |
|  | 26 頁の交通体系の図を見ると、山間部に伸びている府道については、現実には廃道になったりしているものもあるがそのことが記載されていない。少し補足をしてはどうか。   | 京都府の道路に関するデータを参照して修正した。(26 頁)                            |
|  | ジオパークは国立公園や国定公園とも協働して地域資源の保全と活用を行っており、エリア内に国立公園や国定公園が含まれるが、どういう扱いになるのか。  | 第1章の社会的状況に法規制図を追加し、国立公園、国定公園の指定区域を示した。(28～29 頁)          |
| 第3章  | 今後地域計画を市民が「なるほどこの計画は面白い」、「自分も関わっていきたい」と思えるようにするには、先人の息遣いをすぐ間近で感じられるようなテーマが歴史文化の特徴に活かされた方が良いのではないか。   | 現状では組み込まれていない、山城や祭り、年中行事についてテーマ設定をしたうえで、ストーリーを新たに構成した。   |
|  | 第3章では地域を特色づける文化財がストーリーに組み込まれているか、どのようにストーリーに関係してくるのかという視点で検討すると、京丹後市らしい地域計画になっていく。例えば山城、祭り、年中行事など地域の特徴を示すものが盛り込まれていることが重要である。  |  |
|  | 古代「丹後王国」も含めて、市域には色々な神話がある。神話に夢を持ちつつエビデンスも持ち、自信を持って説明できる歴史観を持つ必要がある。  |  |
|  | ひとつの歴史文化の特徴でひとつのストーリーを構成しているが、文化庁のパンフレットのように、ひとつのテーマで複数のストーリーを作成しても良いのではないか。   |  |
|  | はっきり誇りを持って 18 歳以降に活躍していく子ども達を育てるといえるときに、歴史文化や文化財は材料になる。観光活用と、住んでいる人たちにアピールするという両方で文化財を使っていくことになるので、使いやすいように第3章のブラッシュアップが必要。歴史文化による持続可能な地域づくりというテーマ設定が出来ると、非常に素晴らしい計画になる。 |  |
| 色々なストーリーがあると良いと思うが、全体を見渡すひとつの糸がないとばらばらになってしまう。全体のストーリーを何にするかということをお願いしたい。日本全体をひとつのストーリーとして捉え、例えば大和政権という視点から見たらどう位置付けられるのかという見方と、地域からの見方の両方があれば、真実性も夢も力も沸くものになるのではないかと思う。次回でもよいので、専門家にはそのあたりのまとめ方について教えていただきたい。 |  |  |